



すべての子供に 学ぶヨロコビ。

平川教育長の

リアルスコープ

「生きるってなに？」を探究すること

教育の根源・根本とは何でしょうか？私は、「人間とは何か」を知ることに思います。広島県では4年前から商業高校をはじめとするいくつかの高校で「生きるってなに？」という探究的な授業を展開してきました。初めは、一行も書けなかった生徒たちも、日を追うごとに「私の場合、生きるとは**だ」と何行も何行も書くことができるようになりました。書き始めると話し始めます。話し始めると、他の生徒との対話が生まれ、「あ、そういう意見もあるんだ」と新たな気づきが生まれ、考えが深まります。

3年間「生きるってなに？」の探究学習を受講してきた生徒に対し、私は「受講後と受講前の違いは？」と聞いたことがあります。すると「自分は元々すぐに



悩んでしまう性格で、中学生までは両親や友達に聞いてそのとおりに実行していた。でも、今はまず自分一人で考えて、次に他の人に聞いて、再度自分で考えて結論を出すようになった。」と答えが返ってきました。

これまでの学校教育は「みんなと一緒に」を教えてきたところは否めないと感じています。しかし、最近は「生きるとは何か？」をみんなで考えることが、集団教育である学校の良さを活かしているのではないかと思います。

今後は高校だけではなく、様々な校種でも「生きるってなに？」を大人も子供も探究できればと思います。



“開け 未来の扉 中国総体 2025” 愛称やスローガンなどが決定！

令和7年度に中国地方で開催される全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案・スローガン揮毫作品の各最優秀賞が決定しました(応募総数1,303点)。今後、大会に関わるあらゆる場面で活用されます。

大会愛称 広島県立高陽高等学校 二井 陽香 さん	スローガン 山口県立萩商工高等学校 阿部 晃子 さん	シンボルマーク 広島県立海田高等学校 柳澤 雄希 さん	総合ポスター図案 サビエル高校 面村 あさひ さん	スローガン揮毫(横) 広島県立大門高等学校 曾我 仁美 さん	スローガン揮毫(縦) 広島県立大門高等学校 笹井 遥花 さん
高校生がさまざまな制限の中で培ってきた努力を発揮し、未来を少しでも明るくしたいという思いを込めました。	全選手に向けてのメッセージとしての意味。努力は裏切らないという思いです。	5つで色を変えて中国地方の5県をイメージし、その5県が高体連のマークに向かって競っているときの躍動感を表現しました。	3年間、楽しいことや辛いことがありながら、がむしゃらに練習すると思います。そんな「熱」や「勢い」「激しさ」を表現しました。	大会出場の皆さんが士気を高め、最後まで粘り強く挑戦し続けるための、行書で躍動感あふれる筆運びを意識して制作しました。	青春、努力の美しさとかっこよさを表現するために、行書で躍動感あふれる筆運びを意識して制作しました。



皆さんのリアルなお悩みや不安をスッキリ解決します！

大窪シゲキの
こころの相談室

広島FM「9Jラジ」で
メインDJを務める
大窪 シゲキさん

Q いつも「なんとかなる、まあ、いいか」と、嫌なことを先送りしてしまいます。どうすれば、気持ちの切り替えができますか？
10代の生徒

A 心配しないで。僕も10代のときはそうでした。今でもたまにそうです。(笑)でもそれではダメだと思い、自分の「切り替えスイッチ」はどこにあるのかを探しました。一人の状況では先送りして逃げ出してしまう場合は、家族や友達と一緒に嫌なことに向き合ったり、将来の夢を誰かと語り合ったりすることで、刺激をもらい前向きな気持ちになれました。自分で切り替えられないなら、誰かに切り替えてもらえばいい。最初の一步は腰が重いけど、一步踏み出すと意外と前へ前へと歩き出せます。一人で無理なら二人三脚でもいい。まずは一歩目を大切な人と。

Q 失敗が怖いのか主体的に新しいことにチャレンジできない、また笑顔で楽しめない子供に対しての背中押し方がありますか？
50代の保護者

A 分かります。大人になればなるほど失敗は怖いですが、失敗が人生を大きく左右することもあります。それでも失敗するときがある。人間だもん。だから子供のうちに失敗に慣れておくことが大切です。なぜなら、僕は「若いときの失敗は大きな成功の中の小さな成功」だと思うからです。失敗した人の気持ちに寄り添える人になれる。そもそも、失敗はチャレンジしたからこそ生まれるもの。なので、ご家族も何かに挑戦を。お子さんの前で失敗を隠さずに見せてあげてください。失敗後は笑顔で前向きに。そうすれば、失敗を悪く思わなくなる。是非、失敗を。(笑)

質問のある方 P1の読者プレゼントの応募フォーム、またはハガキにご記入ください。

特別支援学校の取組

広島県立広島中央特別支援学校の
幼児児童生徒の活躍

「日本一」を目指して!

広島県立広島中央特別支援学校(広島市東区)は、県内唯一の視覚障害のある幼児児童生徒を対象とした特別支援学校です。「強く正しく明るく」という校訓を掲げ、自律し社会に貢献する人材の育成という教育方針のもと、幼稚部から高等部に至るまで一貫した質の高い視覚障害教育を追究し、やるからには「日本一」を目指してさまざまなことに取り組んでいます。あきらめない姿勢で挑戦する広島県立広島中央特別支援学校の幼児児童生徒の活躍を紹介します。

第90回全国盲学校弁論大会 特別審査員賞受賞 中学部第2学年 林 健太さん	第72回ヘレン・ケラー 記念音楽コンクール ヘレン・ケラー賞受賞 小学部第6学年 坊田 悠祐さん	IBSA ブラインドサッカー アジア・オセアニア選手権 2022 女子日本代表優勝 中学部第1学年 田中 一華さん
第45回全国盲学生点字競技大会 学校賞 第1位 学部賞 小学部および中学部 第1位 個人賞 小学部および中学部の児童生徒 第1位、第2位	個人賞 小学部 第1位 第6学年 濱田 美遙さん	個人賞 中学部 第1位 第3学年 榎沢 桜香さん